



秋田大学産学連携推進機構  
准教授／総括URA 伊藤 慎一

# 自己紹介

文字どおり「産・官・学」を経験してきました

産

2000年～

製薬系企業での製品開発・品質保証・バリデーション業務も少々、、、  
研究者コミュニティのあり方、知財の重要性、ネットワークの大切さ

官

2008年～

地域の企業支援センター、NEDOフェローの活動をとおして  
国事業の成り立ち、管理手法、彼らが何を考えているか（行動規範？）

学

2011年～

URAという立場から、研究活動の重要性、研究支援のあり方、地域連携  
、大学発ベンチャー、新規ネットワークの構築まで

# URAとしての業務の時間配分の変化

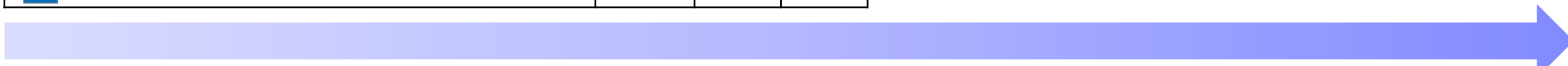
‘12 ‘14 ‘16

シーズ・ニーズの掘り起こし	21	13	8	↓
知的財産の発掘・管理・活用	8	10	6	↓
企業からの共同研究依頼の対応	31	10	10	→
新しい研究プロジェクトの構築	10	32	40	↑
金融機関との連携システムの構築	5	5	19	↑↑
産業界・自治体との連携システムの構築	18	21	6	↓↓
ベンチャー起業・育成	7	9	11	↑

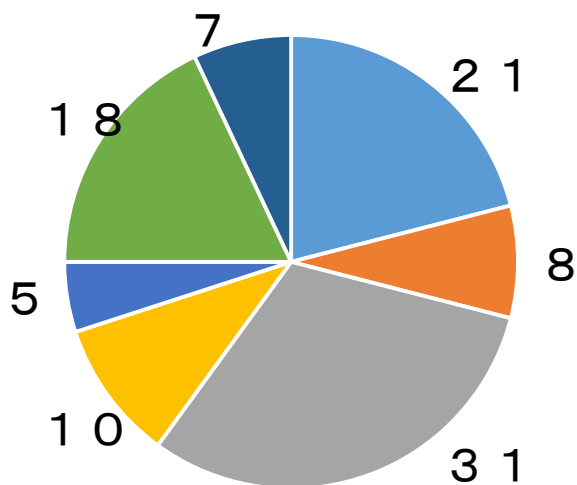


## 仮説

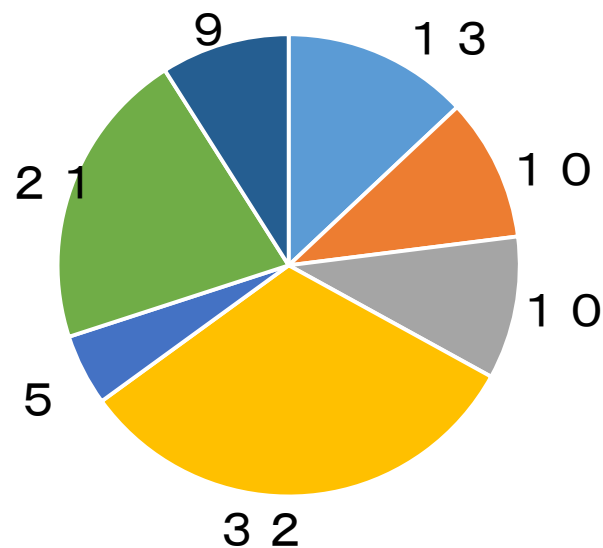
共同研究の構築より  
研究プロジェクトの構築や  
ネットワーク支援をして  
ほしい？



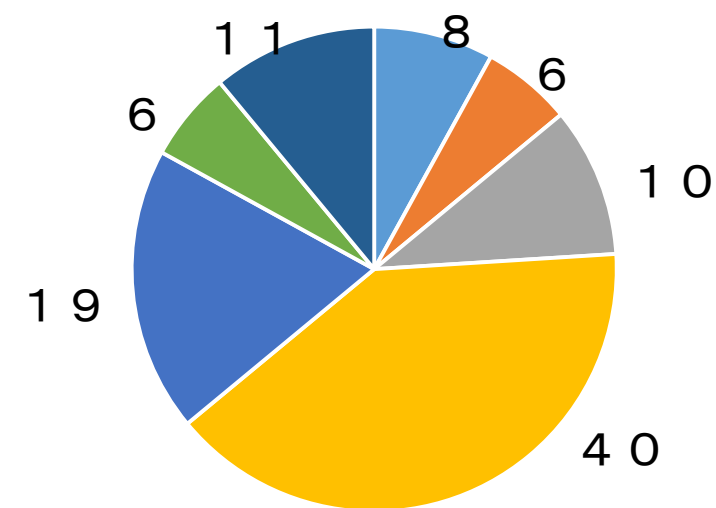
(2012年)



(2014年)



(2016年)



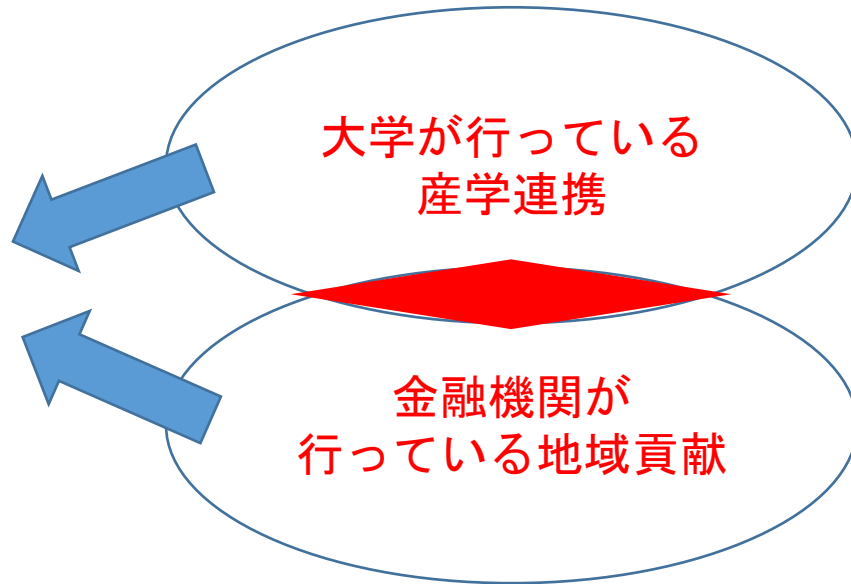
# 秋田大学を取り巻く学金連携の状況について

## 大学側の課題

スタッフ数の減少  
新しい施策の実施  
我々の戦略的取り組みあり方について

## 共通の課題

自治体等との  
連携をそれぞれ  
行っている



リテールのありかたの議論  
メガバンクやネットバンクの台頭  
地域のお金をどのように使うかという戦略

## 地域金融機関側の課題

平成29年より  
地域の第一地銀2行と人事交流を行い  
産学連携担当コーディネーターとして活動中  
※ 特任准教授のポストを準備



- ・ 高齢者研究医理工連携事業  
(秋田は全国一の高齢県)
- ・ 大学発ベンチャー  
(起業家マインドの醸成)

地域とともに



- ・ 地下資源研究
- ・ 輸送機・ロケット産業研究  
(糸川博士がロケットを飛ばしたのは秋田)
- ・ 北東北ネットワークの構築

# 北東北3大学3銀行によるネットビックスプラス

## ネットビックス

秋田銀行

商品の販売先・仕入先・受注・発注等に関するニーズ

岩手銀行

M&Aに関するニーズ

青森銀行

新規出店等、企業進出に関するニーズ

企業の直接的な商取引、事業承継へのニーズへの対応が主体

## ネットビックスプラス

秋田銀行

各大学が保有する知的財産の開放・提供

岩手銀行

青森銀行

大学の新技術ライセンスに関する仲介役

秋田大学

岩手大学

新しいビジネスのタネ情報の提供と  
技術データベース開放

弘前大学

取引先企業の技術的課題解決へ向けた情報がスムーズ、かつ広範囲から取得可能

- ・ 既存・新規先を問わず、これまでとは違ったアプローチが可能！
- ・ 参加銀行のみの利用！  
(他行に無いサービスの提供)

# 北東北3大学3銀行による連携協定を実施



平成28年7月14日に北東北3大学3銀行のメンバーはネットビックスプラスの連携協定をしました。

	製造・建設等	農業・漁業	医療	合計	うち特許有
秋田大学	34件	—	18件	52件	50件
岩手大学	130件	54件	5件	189件	53件
弘前大学	125件	36件	42件	203件	29件
合計	289件	90件	65件	444件	132件

自然科学系研究者444件の紹介ネットワーク  
紹介可能特許132件のデータを所持  
案件数と事業化に向けたアクティビティは十分なポテンシャルを持つと自負！

RA協議会第3回年次大会  
平成29年8月30日（水）13:50-15:20  
於 あわぎんホール 徳島県郷土文化会館



セッションE-1産学金連携

# 「地域イノベーションに貢献するUR Aの役割」

茨城大学  
学術企画部企画課UR Aオフィス  
UR A 間宮 るい

# 茨城大学 U R A オフィス 組織紹介



- U R A オフィスメンバー：4名+1名
- 研究者数：約540名（5学部+その他センター等）

## 茨大 U R A オフィスの歴史

### 2015年3月

JST「『多能工型』研究支援人材育成コンソーシアム」事業（群馬大学・宇都宮大学・茨城大学）の採択を機に U R A オフィスを設置  
学長直轄組織である「大学戦略・IR室」内に U R A オフィスをおく  
（産学連携部門とは別組織）

### 2015年11月

学長特別補佐(研究戦略)が室長となる

### 2016年4月

U R A を1名(間宮) 試験的に農学部へ配置

### 2017年4月

U R A オフィスが学術企画部企画課へ移管  
同時に社会連携センターから学術企画部に産学連携課が移管

## 『茨城大学の研究成果を社会に結実させ、世界へ発信するために』

本学の U R A は、競争的資金に関する情報提供、科研費の申請書作成支援、共同研究や異分野融合テーマのコーディネータ、全学的な研究戦略立案支援等を行う重要な役割を担っています。

産学連携コーディネータや地(知)の拠点整備事業(COC事業)コーディネータ、国際戦略コーディネータらと有機的に連携することで、研究者に対する多層的な支援を行うことも期待されています。

(U R A オフィスHP「ごあいさつ」より一部抜粋)



澤田



平山



梶野



神永

(支援職員(事務))



間宮  
阿見駐在

2017年5月以降、  
週2日程度日立勤務

その他センター等  
約75名

工学部 156名

日立キャンパス

人文学部 87名  
教育学部 104名  
理学部 66名

水戸キャンパス

阿見キャンパス

農学部 58名

2016年4月より試験的に  
農学部総務係を拠点に活  
動中



# URAオフィス活動紹介



- 活動内容:
  - ・ プレアワード支援
  - ・ 研究戦略立案支援(概算要求等)
  - ・ 科学技術・学術政策の動向把握等
  - ・ 学内情報発信(茨大URAニュース、研究助成ニュース)
  - ・ 科研費申請書の実質全件チェック  
(平成27年度 289件、平成28年度 257件実施)
  - ・ URA訪問ディスカッション(平成28年度15件中7件採択!)
  - ・ 研究IR業務
  - ・ 産学連携業務(今年度から)
  - ・ RA協議会、産学連携学会等での方法論発表

- 活動実績: ※科研費等JSPS申請書の網羅的チェックを除く

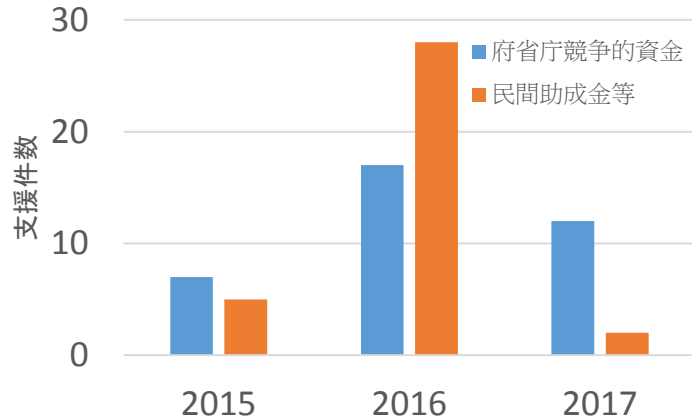


研究助成ニュース(理系版)



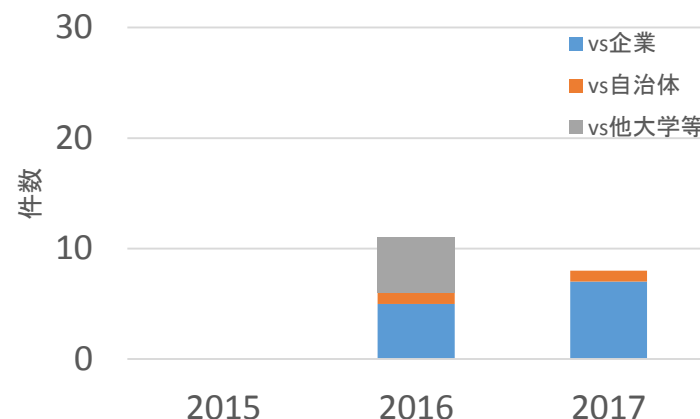
茨大URA NEWS

申請書作成支援実績



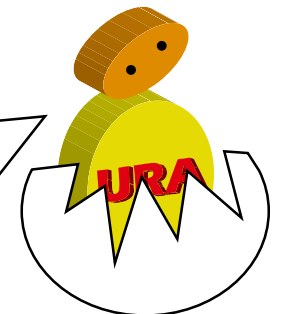
2017年は6月末の実績

共同研究調整等の案件



2017年は6月末の実績

企業と教員があらかじめ組んでいることを前提とする競争的研究資金の増加に伴い、2017年度より、URAオフィスも産学連携に携わっています。そのためURAオフィスとしては産学金の連携に対してはまだまだ、「ひよっこ」です。



# 担当する日々の業務



- 主にライフサイエンス系を担当
  - ✓ 普段は農学部(阿見キャンパス)にいます
- 日々の業務
  - ✓ 競争的資金情報の収集(説明会への参加含)
  - ✓ 申請書のブラッシュアップ
  - ✓ 各種ポンチ絵作成
  - ✓ 外部機関のイベント等に出向き情報収集
  - ✓ URAニュースの配信
  - ✓ 教員から相談される産学連携業務
  - ✓ 農学部IRの支援

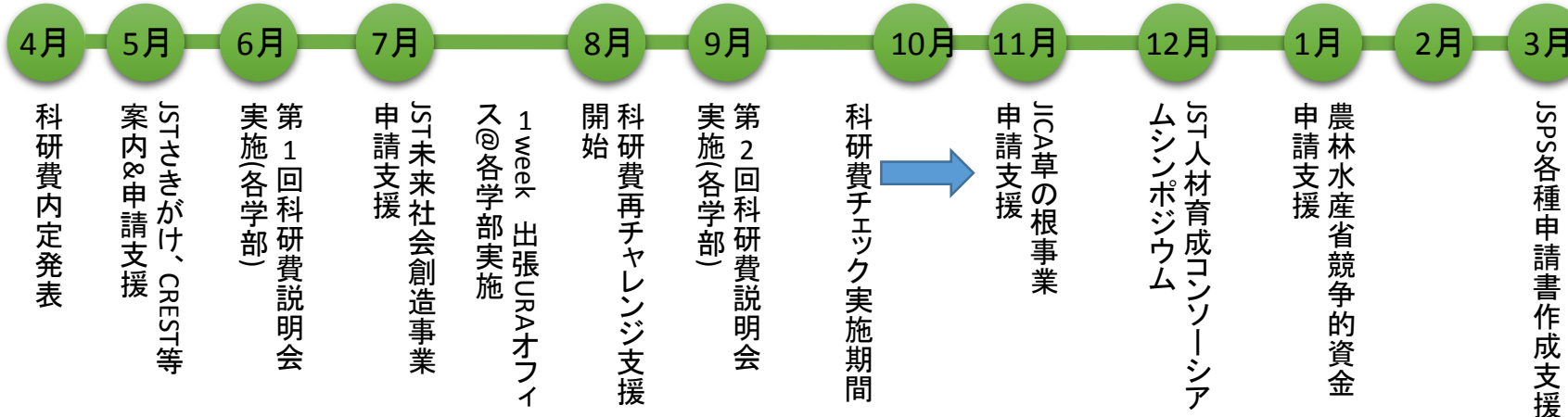
ライフサイエンス系の学内のワンストップ窓口として、認知されることを目標に日々、先生方とのコミュニケーションを心がけています。

「地域に根ざし、持続可能な地域社会づくりに貢献する大学」のもと、自治体とのネットワーク構築にも関与を始めました。



今年度は昨年1年間の農学部での事例を元に、URAと教職員間のネットワークを広げる機会として、全学部総務係にてURAが出張**URAオフィス**を構える試みを行いました。  
これはURAにとっても貴重な取り組みでした。

## 茨大URAオフィス1年間の様子 (H29年度) (URAオフィスニュース、研究助成ニュースは毎月発行)



# 産学官金に関わる学内外ネットワーク



## 組織的なつながり

- 地域特性を活用した「多能工型」研究支援人材育成コンソーシアム(大学)
- つくばライフサイエンス推進協議会(農学部)

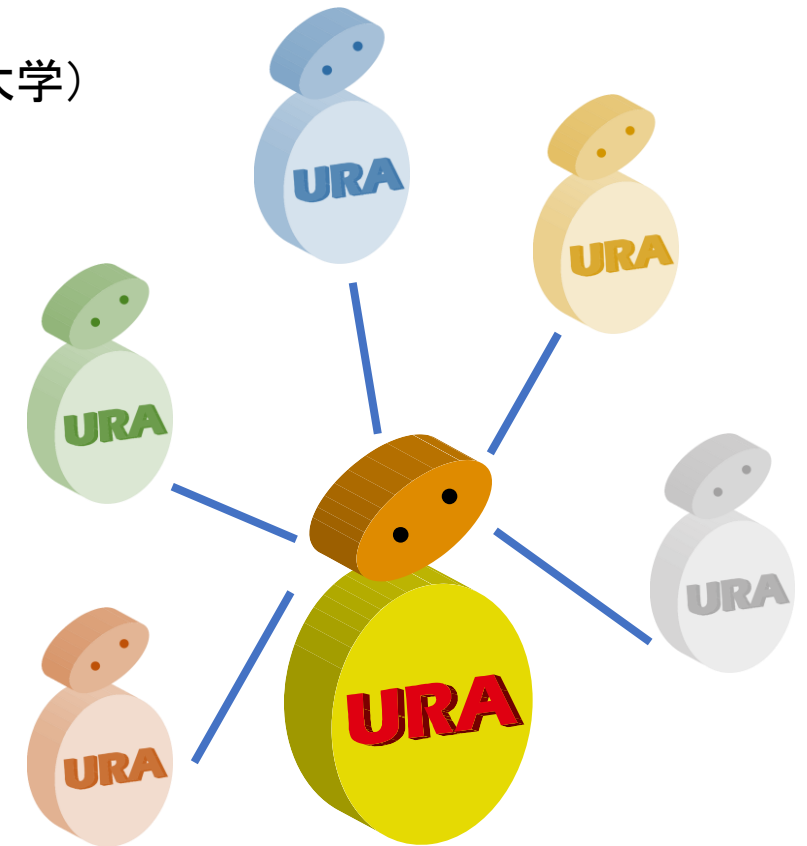
## コーディネータ等でのつながり

- つくばグローバル・イノベーション推進機構
- いばらき成長産業振興協議会(茨城県商工労働観光部)
- 他大学URA、共同研究センター等教員とのネットワーク
- JST、NEDOなどファンディングエージェンシー職員とのディスカッション
- 県庁職員(農林水産部、企画部)、市役所職員
- その他

今後さらに増やしていく予定です。

## 金融機関との連携

- 本学社会連携センターが実施  
(農学部案件では必要に応じて関与)



学内外ネットワークを活用して、企業や地域自治体等、外部との連携・協働の芽を大学へつなげるべく、ネットワークを構築中です。

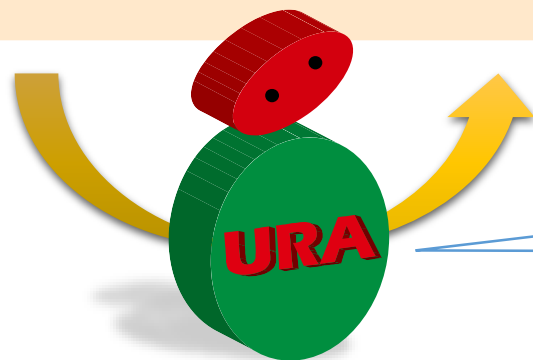
# 今後どのように発展していきたいか？



プレアワード中心の活動：  
学内研究活動の理解と  
信頼関係の構築

地域とのネットワーク構築：  
地域とのつながり、地域  
ニーズ把握・情報の学内へ  
の還元

大学発  
地域イノベーション創出：  
大学の持つ強みを生かした  
地域イノベーション創出



About here.

さらには、この仕事を通して子供たちが健康的  
でおいしい食事を将来にわたって食べ続けられ  
る社会に貢献したいと思っています。

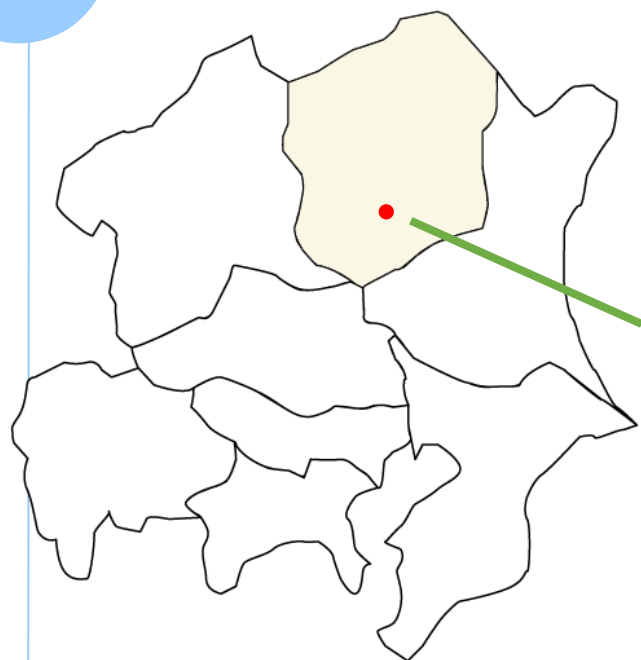
宇都宮大学地域共生研究開発センター

# URA室業務と学内外ネットワーク



地域共生研究開発センター  
URA室 倉山

# 宇都宮大学の紹介



宇都宮大学

## ■宇都宮市内に2つのキャンパス

### ○峰キャンパス

- ・本部
- ・国際学部
- ・教育学部
- ・農学部

### ○陽東キャンパス

- ・地域デザイン科学部
- ・工学部

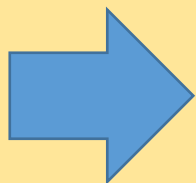
■学生数 4,962人(2015.5.1)

■教員数 348人(2016.5.1)

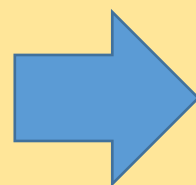
## 自己紹介



助手（現・助教）  
（4年）



ポスドク  
（6年）



コーディネーター  
（2年）



URA  
（2015年3月～）

# 宇大URA室の紹介

## 地域共生研究開発センター

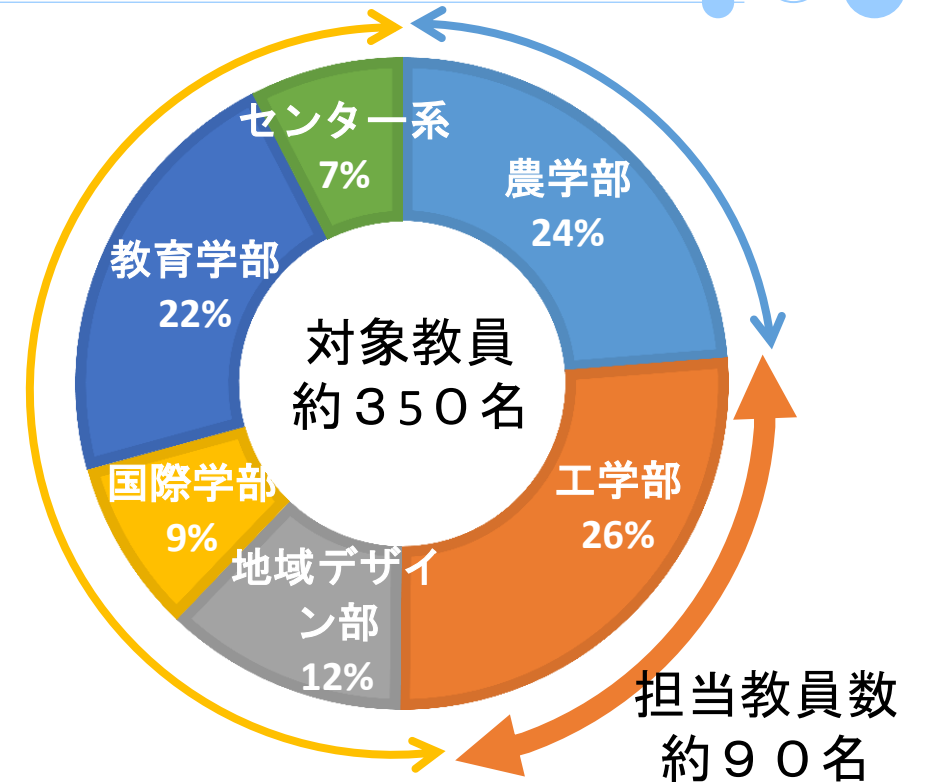
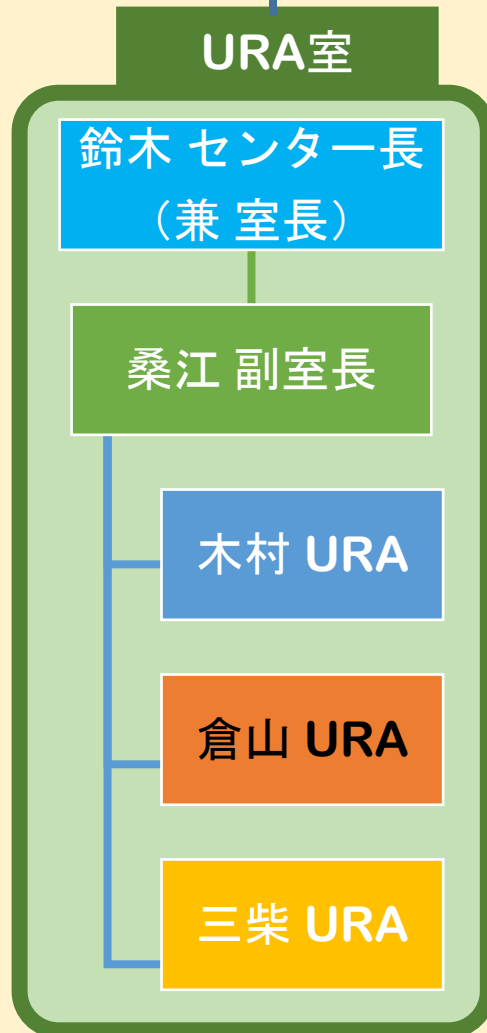
先端計測部門

イノベーション創成部門

産学連携・知的財産部門



センター外観



# これまでの主な業務 (2015.3.1 -)

## URA室のミッション 外部資金の調達

- 府省公募事業への申請支援
- 民間助成金への申請支援
- 産学連携の推進
- 科研費の支援

- シーズ集の活用  
(WEB・イベント等で配布)
- 支援機関との連携
- イベントの開催

広報

研究  
支援

情報  
収集

- 教員インタビュー
- シーズ集のとりまとめ
- 各種説明会等の情報収集
- 概算要求等の分析



# 情報基盤の整備と活用

## 情報 収集

### ■教員インタビュー（H27.10.1-）

- ▶研究の背景（研究者の興味）
- ▶研究の内容（現在のテーマ）
- ▶研究の強み（特色）
- ▶産学（異分野）連携の可能性

etc...

## 広報

## シーズ集の整備

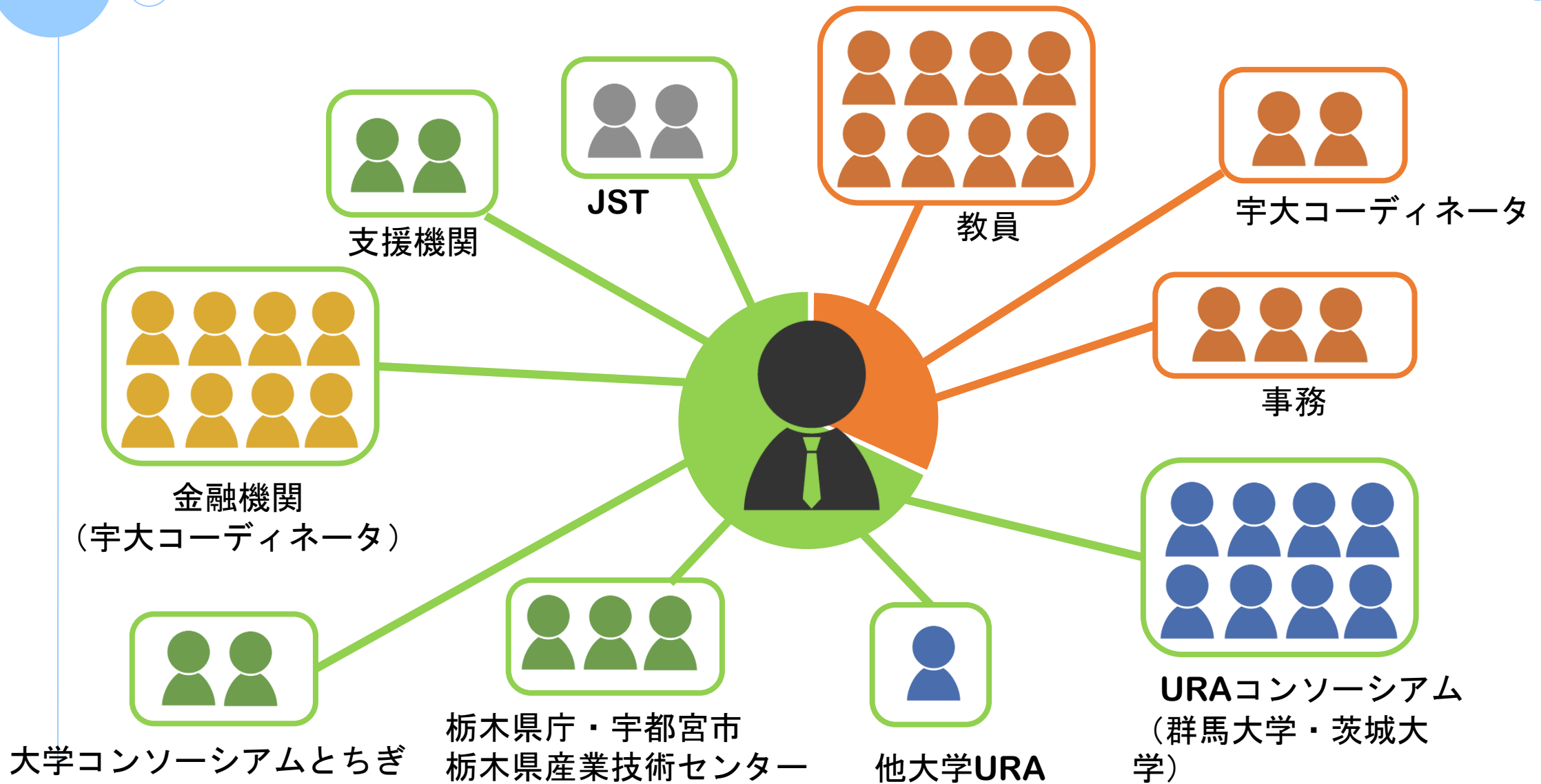


## 広報

## イベントの開催（平成29年度）

- めぶきFG「ひざづめミーティング」（6月）
- DISうあるどin宇都宮とちぎ（7月）
- イノベーションジャパン（8月）
- 宇都宮大学主催「企業交流会」（9月）

# 活用している学内外のネットワーク図



# 府省公募のこれまでの申請支援

研究  
支援

出会い

プロジェクト  
の形成

開始

府省公募  
申請

採否

ケース 1



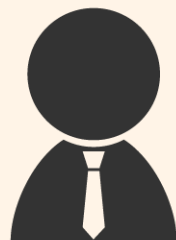
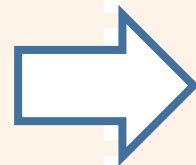
企業



教員



事務



申請支援



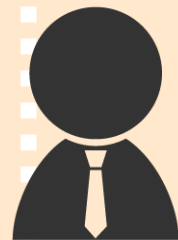
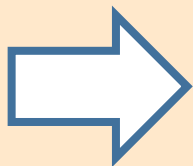
他大URA

採択

ケース 2



企業



教員

共同研究



申請支援



企業

採択

栃木県庁・宇都宮市  
栃木県産業技術センター

# 府省公募のこれまでの申請支援

研究  
支援

出会い

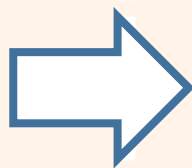
プロジェクト  
の形成

開始

府省公募  
申請

採否

ケース 3



企業

教員

申請支援



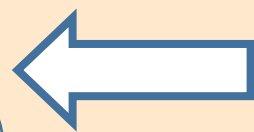
採択



ケース 4



企業

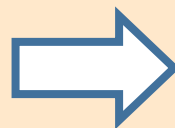


訪問

イベント

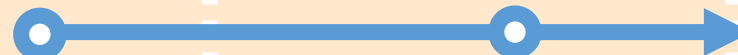


コーディネータ



教員

申請支援



採択



# 産学連携（共同研究）のこれまでの支援

研究  
支援

出会い

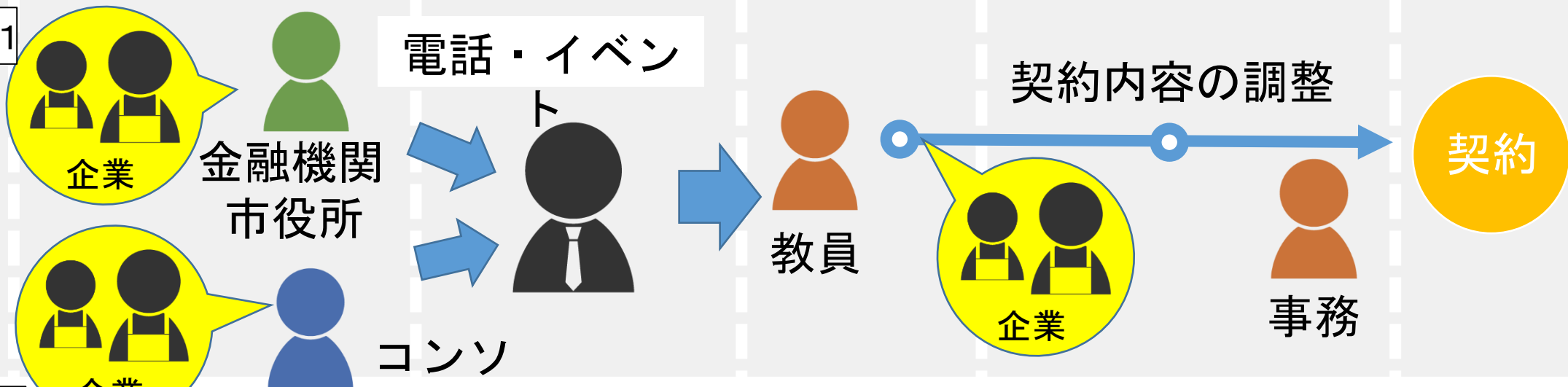
調整

面談

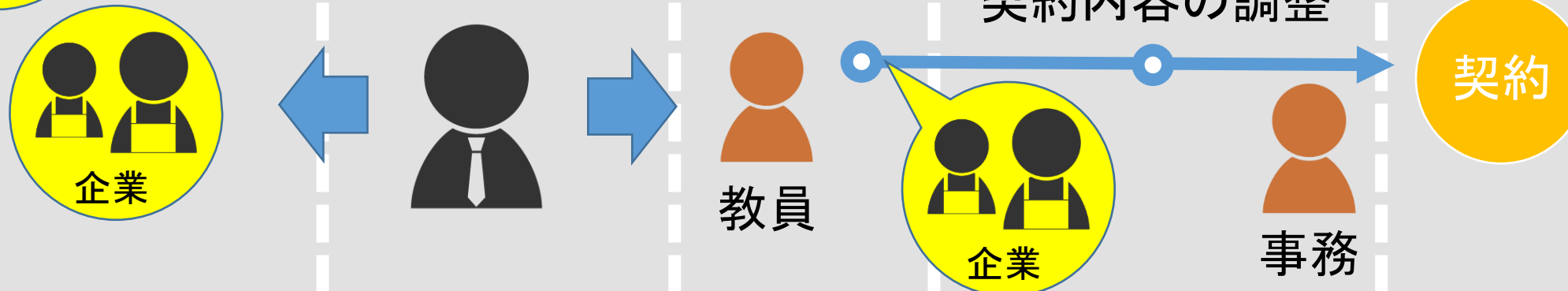
内容吟味

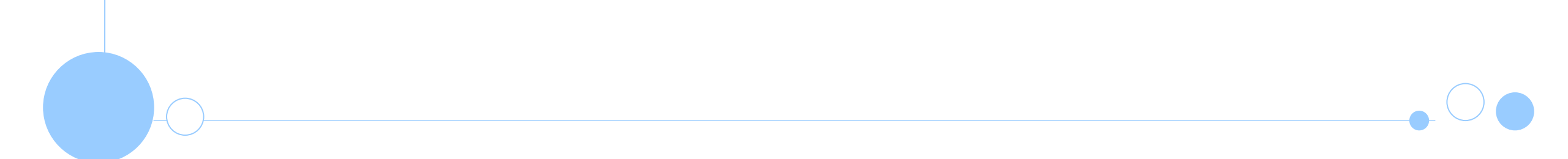
契約

ケース 1



ケース 2





ご清聴いただき、ありがとうございました。

宇都宮大学地域共生研究開発センター

URA室 028-689-6331

[cdicd@cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:cdicd@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

**E-1 : 産官学金連携 / 地域企業との産学連携**

# **地域イノベーションに貢献するURAの役割**

東京海洋大学

産学・地域連携推進機構

設楽 愛子

# 自己紹介

名前：設楽 愛子

2004年4月 東京海洋大学入学

2015年3月 東京海洋大学大学院修了

2015年2月 研究支援人材育成プログラム採択事業「水産海洋イノベーション  
コンソーシアム」にて、URAとして採用

2017年8月 東京海洋大学、産学・地域連携推進機構にて、URA（リサーチ・  
アドミニストレータ）として勤務



## 【主な業務】

- ✓ 知的財産の管理  
(発明相談～出願・維持)
- ✓ 技術移転活動  
(イベント出展・技術相談・ライセンス活動)
- ✓ 研究支援活動  
(プレアワード・ポストアワード支援,  
共同研究支援、国際連携支援、ABS対応) etc…

東京海洋大学のURA（水産海洋IOF候補）は・・・

水産海洋分野に特化した知識を備え、  
国内外の地域、企業、研究機関とを結  
びながら研究支援を行う人材

→幅広い研究支援業務を遂行できる人材



# 本学のプロフィール



## 海洋工学部

- 海事システム工学科
- 海洋電子機械工学科
- 流通情報工学科
- 練習船等-汐路丸、やよい

## 海洋生命科学部

- 海洋生物資源学科
- 食品生産科学科
- 海洋政策文化学科
- 水産教員養成課程

## 海洋資源環境学部 (2017年4月より新設)

- 海洋環境科学科
- 海洋資源エネルギー学科

- 練習船等-海鷹丸、神鷹丸、青鷹丸、ひよどり

## 海洋科学技術研究科

- 海洋システム工学専攻
- 海運ロジスティクス専攻
- 海洋生命資源科学専攻
- 海洋資源環境学専攻
- 海洋管理政策学専攻
- 食機能保全科学専攻
- 食品流通安全管理専攻

**学部：3学部**  
**教員数：252名**  
**URA数：3名**  
**日本の国立大学で**  
**唯一の水産・海洋系大学**

- ・ 2003年に東京水産大学と東京商船大学が合併し誕生
- ・ 大学として6船の船舶を有する
- ・ 28カ国等91機関と国際交流協定を結び、23カ国等232名の留学生が在籍
- ・ 海洋・海事・水産分野の産学連携研究が盛ん

# なぜ、水産海洋IOFが必要か？

- 水産海洋分野では、産業体系と、大学での研究・開発が密接に関わる。
- 研究・開発も大学にとどまらず、他の研究機関や地域と密接に連携する。
- そのマネジメントや橋渡しを担うために水産海洋IOFのスキルが求められている。

→ 研究から産業まで、幅広い知識が必要

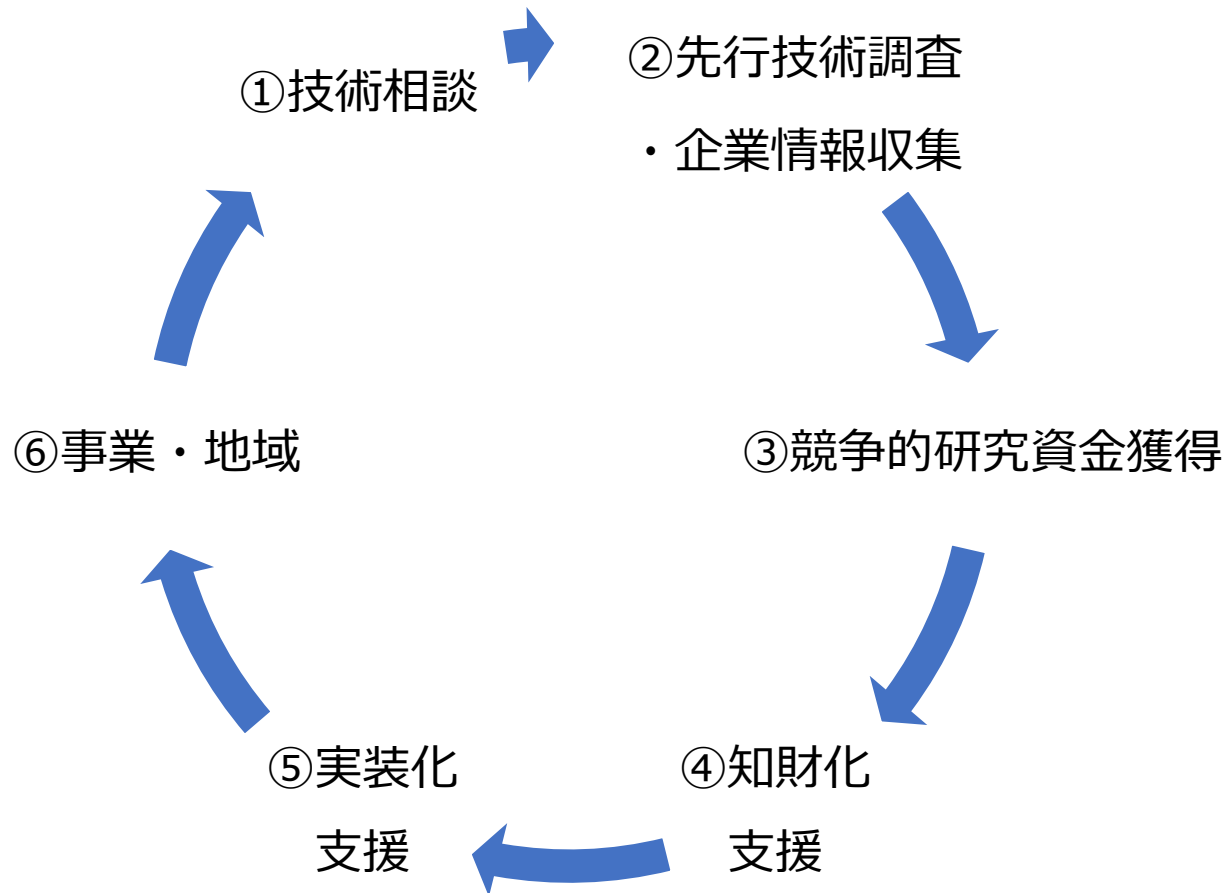
×専門医

○町医者



# 海洋大URAの業務

## 研究開発推進サイクル



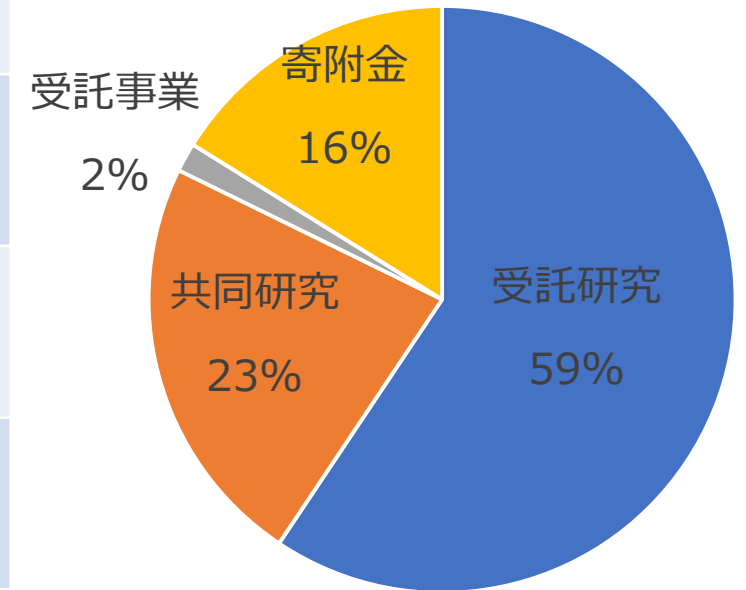
## URAの業務

- ・技術相談
- ・産学連携支援  
国際連携支援  
(契約交渉等)
- ・競争的研究資金獲得
- ・研究運営支援  
(協力機関との調整、  
報告書作成支援等)
- ・知的財産化 (知財化)  
戦略検討
- ・知財化支援
- ・知財管理
- ・実装化 (技術移転) 支援

**URA 3名が担当制を  
とって各プロジェクトを一貫して支援して  
いく。**  
**各URAに得意分野が  
あるので、担当制を  
とっているものの、  
ステップによっては  
主担当以外のURAも  
参画・支援する。**  
**= 情報共有は随時**

# 本学における産学連携状況

区分	件数	金額（千円）	成果（知財）の取り扱い
受託研究	68	567,095	本学単独出願
共同研究	156	218,524	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学又は共同研究機関の単独出願</li> <li>・ 共同出願</li> </ul>
受託事業	11	15,210	本学単独出願
寄附金	435	154,265	本学単独出願
合計	670	955,096	—



平成28年度

出典：東京海洋大学 概要 平成29-30年度

# 本学における産官学金連携

## 2つの信用金庫と包括連携協定を締結

### 東京東信用金庫

#### ● 連携協定締結

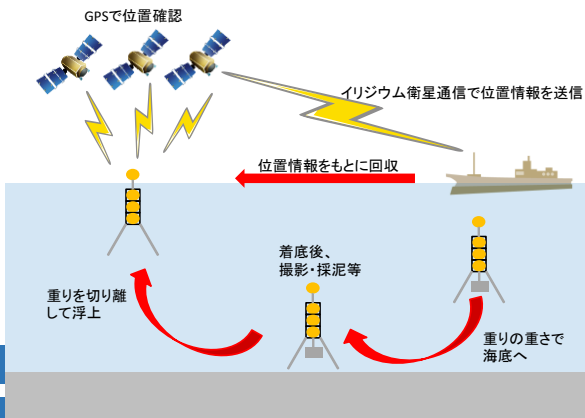
東京東地区：中小企業の集積地域

(特にものづくり企業が多く立地)

しかし…東京東部地域は大学が少ない

#### ● 技術相談の連携

#### ● 江戸っ子1号プロジェクト



#### ● 東向島オフィスの設置

東京東信用金庫本店（墨田区）  
にサテライトオフィスを設置



#### ● 産地と消費地をつなぐプロジェクト

海洋大学の三陸サテライトの所在する宮城県気仙沼市の企業、気仙沼信用金庫（産地）と墨田区の飲食店、東京東信用金庫（消費地）とを結ぶプロジェクトを開始

2つの信用金庫と包括連携協定を締結

## 城南信用金庫

- 連携協定の締結
- イベントへの出展（よい仕事おこしフェア@東京国際フォーラム）
- 技術相談の連携
- 知財活用アイデア全国大会での学生参加を支援（2015年11月）

## ●東京海洋大学にとっての地域とは？

水産・海洋・食品などに関する課題を持つ全国の地域と考えている。

→全国各地の地方自治体、企業との共同研究、連携を行なっている。

例：宮城県気仙沼市、愛媛県西条市、神奈川県、、、等

課題：コミュニケーション！

## ●URAの役割

学内、機関同士、地域内での調整役に。。。

ある時はプレアワード支援、ある時は技術移転支援、

またある時は明細書と格闘と、時と場合で多様な対応をとっていく。

ご清聴ありがとうございました。

全国の水産・海洋・船舶・機械・食品・流通分野などの  
相談、連携 お待ちしています！

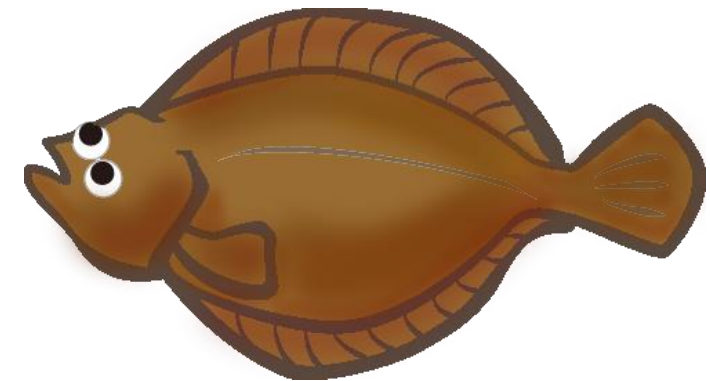
【質問・コメント等、お気軽にお問い合わせください】

東京海洋大学 産学・地域連携推進機構

URA 設楽 愛子

電話：(03)-5463-0859 FAX: (03)-5463-0894

E-mail：olcr-ura@m.kaiyodai.ac.jp（海洋大URA共通）





RA協議会第3回年次大会  
平成29年8月30日（水）13:50-15:20  
於 あわぎんホール 徳島県郷土文化会館

セッションE-1産学金連携

# 「地域イノベーションに貢献するURAの役割」

福井大学  
産学官連携本部 研究企画・管理部  
URA 徳田 加奈

# 福井大学のご紹介

学部 : 4学部  
教員数 : 553名  
学生数 : 5,105名

教育学部  
国際地域学部  
工学部  
医学部

「第3期中期目標」より  
地域の知の拠点として地域社会との連携を  
強化し、地域社会を志向した教育・研究を  
推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与  
する。

**地域イノベーションに基軸を  
置いた大学です。**



# 産学官連携活動におけるU R Aの立ち位置

## 大学に期待されていること

- 組織的な連携体制の構築
- 企画・マネジメント機能の確立

## U R Aの目指す姿 ー福井大学の場合ー

- 部局横断的な共同研究をマネジメントできる体制の構築  
⇒ 企画と提案を行い、実行をサポート
- 産学官連携活動の現状・課題を把握  
⇒ 将来ビジョンを具体化する目標・計画を策定

産学官連携推進のための  
組織能力の強化！

産学官連携・地域イノベーション推進機構

(H29.1.24役員会で構想承認)

COC関連

地域イノベーション推進本部

【新産学官連携本部体制】

産学官連携本部

新研究開発推進組織

新URA組織

産学官連携推進部門

研究統括部門

産学官連携推進

連携企画部



参加教員

地域産業研究開発拠点、  
事業化企画・推進、連携戦略等

共同研究推進部



参加教員

共同研究推進、協力会部会活動、  
シーズ集、コーディネート活動等

計測・技術支援部



教員  
技術職員

共用設備、拠点運営、  
オープンR&D、各種講習等

産業人材育成部



教員

地域人材育成、国際化人材育成、  
MOT教育、起業活動支援等

外部資金等研究統括

研究企画・管理部

研究戦略・研究企画、研究分析、  
IR活動、研究戦略データベース管理、  
シーズ発掘、情報収集、pre-RA活動、  
post-RA活動、コンプライアンス、  
リスク管理、予算・執行管理、  
関連センター等運営管理等

知的財産・技術移転部

知財出願権利化、契約管理、技術移転、  
ライセンス、安全保障輸出管理



URA

研究経験・学術  
的能力



専門事務  
職員

学内ネットワーク、行政・経営能力



CD

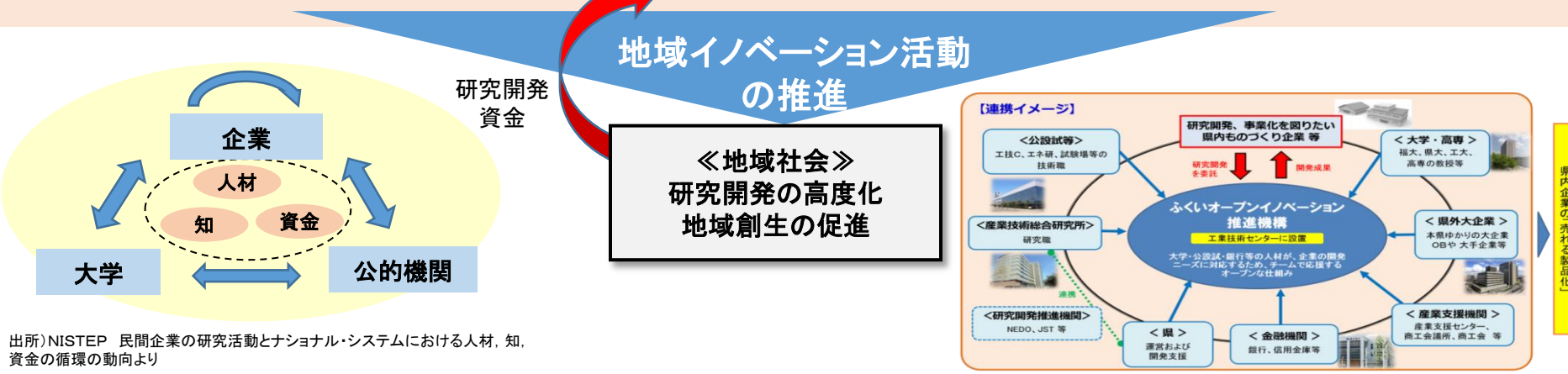
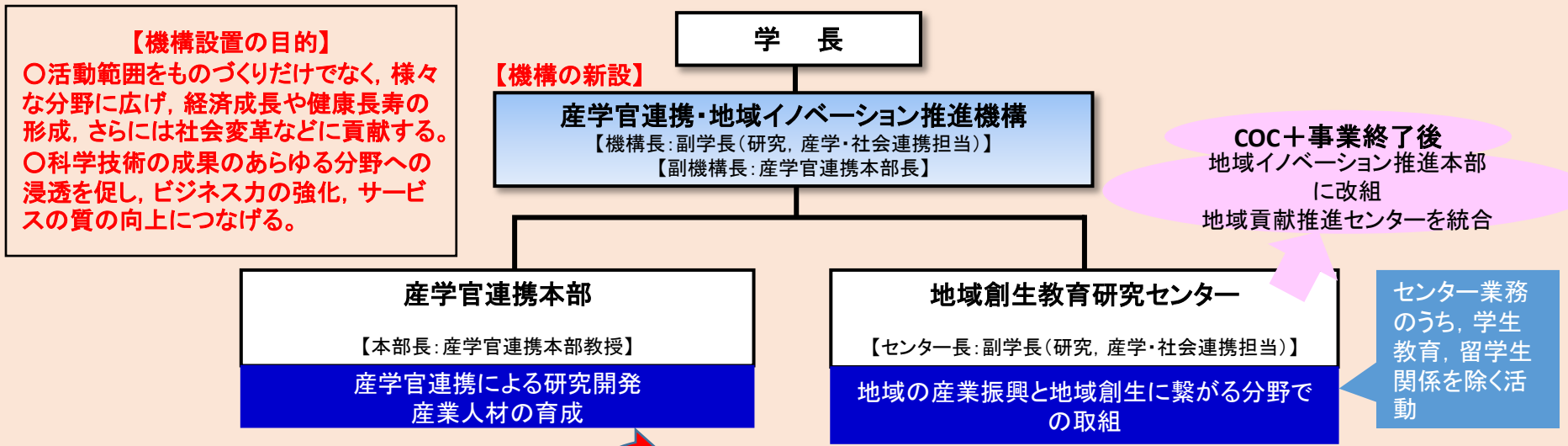
企業経験、技術  
的能力、学外  
ネットワーク

応用を意識した基礎研究～実用化研究  
に至る研究経営の強化！

産学官連携本部、URAオフィス、研究推進課機能の統合  
(平成29年2月施行)



# 産学官連携・地域イノベーション推進機構の設置構想(案)



# 産学金連携コーディネーター制度概要図(福井銀行との連携)

- ・福井県全域に展開している金融機関営業店のネットワークを活用し、広く企業ニーズを吸い上げ、大学へつなぐ体制を構築

教員・研究者 大学コーディネーター  
産学官連携本部

相談

回答

育成

連携

産学金連携コーディネーター



統括

福井市

嶺北北部  
奥越

丹南

嶺南

大学窓口

非常勤コーディネーターとして  
産学官連携本部に籍を置く

地域創生チーム

相談

育成・研修

営業店

# 地域に貢献できるUR Aを目指して

- 大学内に閉じこもらない、地域と連携できるUR Aへ
- 地域にイノベーションを起こせるUR Aへ

## そのために、これからのUR Aは、

- 学内外、県内外、国内外のネットワークを活用
- コーディネート機能のレベルアップ
- イノベティブな発想を持ち続ける

ご清聴ありがとうございました。

国立大学法人福井大学  
産学官連携本部 研究企画・管理部  
URA 徳田 加奈

Tel : (0776)27-9775

Fax : (0776)27-9742

E-mail : tokudak@u-fukui.ac.jp

HP : <http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/>